

Labo News

らぼ ニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
花車ビル南館 〒450-0002
電話 052-581-1013
FAX 052-586-5680
ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
普通口座731-677
発行人 梶山広美
編集人 山田 真

No.431 目次

- ◆平成29年度
愛知県臨床検査精度管理調査報告会および
特別講演会のお知らせ…………… (2)
- ◆会誌「らぼ」原稿募集…………… (3)
- ◆一般検査の基礎講座に参加して…………… (4)
- ◆生理検査研究班 基礎講座に参加して…………… (5)
- ◆第65回愛知県糖尿病療養指導研究会
学術講演会…………… (6)
- ◆地区だより…………… (7)
- ◆AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第51回)…………… (8)

広報部活動について

広報部長 山田 真

昨年度に引き続き、公益社団法人愛知県臨床検査技師会の広報部長を担当させていただいておりますJCHO中京病院の山田真です。日頃より愛臨技広報部事業にご協力いただきありがとうございます。

広報部は広報誌発行事業と愛臨技ホームページの運営を業務としています。広報誌発行事業は毎月発行している会報らぼニュースと年に1回発行している学術誌「会誌らぼ」を部長、担当理事が担当しています。会報らぼニュースの内容は日臨技・愛臨技関係の報告や周知、行事の募集、地区だより、研修会などの案内を中心に掲載しておりますが、本年は基礎講座に参加した会員からの寄稿や中部圏支部医学検査学会における養成校との連携による学生企画の学生さんからの寄稿等多くを掲載させていただきました。学術誌「会誌らぼ」につきましては本年6月に発刊を予定し準備を進めております。今後は広報誌全体の見直しや掲載内容、紙面の構成の充実を目指し検討してまいりたいと考えております。

愛臨技ホームページは平成27年5月にリニューアルした各ページをホームページ運営委員会委員により適切な運営を行っております。緊急性や重要なお知らせはテロップにて知らせしておりますのでご活用ください。「愛臨技行事参加申し込み」の参加申し込みの際には一部にご迷惑をおかけしておりますが本年度中に運営方法の変更などにより問題点を解決したいと考えております。学術関係のページはホームページ運営委員と各研究班HP担当者が会議等を通じ意思統一を図り協力し適時更新し運営を行っております。また、平成29年度 日臨技中部圏支部医学検査学会 (第56回) にホームページ運営委員会委員は学会ホームページの作成からポスターの作成、当日の講演・発表などのプロジェクト管理を広報担当委員として担当させていただきました。今後、愛臨技ホームページに関してはホームページサーバーの変更を含めた検討やWeb申し込みの実施を課題として進めて参ります。

次年度以降につきましては1月号でご案内しました様に広報部員を募り体制の強化を図ってゆきたいと考えております。

最後に引き続き広報部にご支援賜りますようお願い申し上げます。

平成29年度

愛知県臨床検査精度管理調査報告会および特別講演会のお知らせ

日 時：平成30年3月17日(土) 14:00～17:00
会 場：名古屋第一赤十字病院 東棟2階 内ヶ島講堂
内 容：平成29年度 愛知県臨床検査精度管理調査報告会および特別講演会

- 1) 開会式 (14:00～14:15)
 - (1) 愛臨技会長挨拶
 - (2) 来賓挨拶
- 2) 各検査部門別報告 (14:15～15:45)
 - (1) 事務局総括
 - (2) 臨床化学検査部門
 - (3) 免疫血清検査部門
 - (4) 血液検査部門
 - (5) 一般検査部門
 - (6) 生理検査部門
 - (7) 輸血検査部門
 - (8) 微生物検査部門
 - (9) 細胞検査部門
 - (10) 病理検査部門

各部門から、要点を簡潔にまとめた形式で報告を行います。詳細な報告は各研究班研究会および総括集を参照してください。なお先着順となりますが、参加者には総括集を配布いたします。

- 3) 特別講演会 (16:00～17:00)

テーマ：「県下の臨床検査データ標準化を目指して！！」

1. 愛知県臨床検査標準化協議会について
内田 一豊 技師
2. 過去に発行したガイドライン、リーフレットから
 - 1) 一般検査部門 平田 基裕 技師
 - 2) 生理検査部門 柴田 康孝 技師

愛知県における臨床検査データの標準化のあり方および実施について、専門的な見地から検討を行うために設置された愛知県臨床検査標準化協議会から、標準化の現状を報告していただきます。



基礎教科：20点

主 催：愛知県臨床検査技師会
共 催：愛知県医師会・愛知県病院協会
愛知県臨床検査標準化協議会

会誌「らぼ」原稿募集

平成30年度に発刊予定している会誌「らぼ」69巻 について次の要領で原稿を募集します。

1. 会員業績（出版物・論文発表・学会発表）

- ・平成29年4月1日～平成30年3月31日までに発表されたもので、筆頭者が愛臨技会員で検査学術関連のものに限る。
- ・学会抄録は論文発表には含めず、学会発表の項に掲げる。
- ・下記に記載する所定のExcelに入力する。

2. 入力ファイルについて

体裁は 愛臨技ホームページ「事務局からのお知らせ」に掲載しますので、そこからダウンロード (Excel形式) してください。(下記、入力例)

【論文】 氏名 雑誌名 巻 号 最初の頁～最後の頁 論文題名 共同研究者

筆頭者	雑誌名	巻	号	頁	論文題名	共同発行者
愛臨技 太郎	検査と技術	45	1	1～10	〇〇における・・・	日 臨子・中 臨雄

【出版物】 氏名 書名 最初の頁～最後の頁 題名 発行所

氏名	書名	頁	題名	発行所
愛臨技 太郎	Medical Technology	1～10	〇〇における・・・	医試薬出版

【学会・講演会・研修会】 氏名 回数を明記した学会名 開催月日 演題名 共同発表者

発表者	学会名	開催月日	発表題名	共同発表者
愛臨技 太郎	第65回日本医学検査学会	9月3日 ～4日	〇〇における・・・	日 臨子・中 臨雄

3. 締め切りおよび送付方法

- ・締め切り 平成30年4月15日
※会員業績については編集作業の都合上締め切り後の到着分は次号になります。

・送付方法

【郵送の場合】

公益社団法人 愛知県臨床検査技師会 事務所
〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目16番17号 花車ビル南館
「会誌らぼ 会員業績原稿在中」と明記

【mailの場合】

アドレス：aamt@aichi-amt.or.jp
件 名：会誌らぼ 会員業績原稿在中

一般検査の基礎講座に参加して

名古屋第二赤十字病院 木全みどり

11月19日(日)に「基礎を学ぼう一般検査」の勉強会が開催されました。日当直でも欠かせない尿沈渣、髄液検査の内容であったので興味があり、参加させていただきました。



午前には髄液検査、異型細胞の見方、赤血球形態についての講義を受けました。午後には尿沈渣と髄液標本の観察と症例検討をおこない、最後は6つのグループに分かれて日常業務に関することについてディスカッションを行いました。私は新人ローテーション研修で一般検査の1か月研修を終えたばかりだったので、午前の講義は復習としてとても有意義なものでした。また、髄液検査については基礎の理解が不十分であった私にとっては適切な講義内容でした。異型細胞の鑑別は診断にも有用であるため、紛らわしい細胞と区別できるよう、しっかりと異型細胞の特徴を捉えていかなければならないと感じました。

午後の鏡検実習では、尿沈渣成分の中にはまだ見慣れていないものもあり、短時間で理解することが難しかったです。しかし、説明の紙には細胞の特徴や、その細胞が出現するときの病態が書かれており、尿の性状が特徴的なものは実際の検体が置かれていて分かりやすかったです。最も興味深かったものは、症例検討です。鏡検で重要な所見に気づき、さらに血液データからも病態を把握し、医師に正確な情報を知らせることも臨床検査技師として重要な役目であることを学びました。研究班の方に一つずつわかりやすく説明していただき、その場では理解ができなかった部分も再度資料を見直したり、自分で調べることでさらに理解が深まりました。自分自身の知識量の少なさも実感したので、今回学んだことを吸収し、さらに必要な知識を増やしていかなければいけないと感じました。

日当直に入る頃には、細胞観察のポイントを参考にしながらしっかりと尿沈渣を見ていきたいです。また、髄液検査は直接診断につながるの、「迅速かつ正確に」を意識しておこなっていきます。今回の勉強会で学んだ内容は日常業務に生かせる内容が多く、得た知識を後輩にも受け継いでいきたいです。今後もこのような基礎知識を学ぶ勉強会があったら参加させていただきたいと思います。最後に一般検査基礎講座を開催して下さった方々にこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。



生理検査研究班 基礎講座に参加して

名古屋市立大学病院 生理機能検査係 青木比早子

平成29年12月3日に開催された生理検査研究班 基礎講座に参加させていただきました。今回は呼吸機能検査についての基礎講座でした。私は勤務地で呼吸機能検査に従事していますが経験が浅く、検査について悩む場面が多々あります。そのため、基礎講座の講義と同時に実習を受けられるコースを選択しました。

講義では肺の構造から呼吸の仕組みに始まり、呼吸機能検査の原理や検査時のポイントなどを教えていただきました。更には精度管理についても教えてくださり、とても幅の広い講義内容でした。明日からの検査でこうしてみよう、ここを工夫してみようと考えながら受講させていただきました。

午後の実習は、基本の検査から精密検査まで経験させていただきました。講師の先生方や検査機器会社の方が丁寧に教えてくださり、理解を深めることが出来ました。受講者のグループを少人数で構成していただきましたので、ラウンド講師として回ってくださった先生方に質問出来る機会も多く、大変勉強になりました。多施設の方との討論の場もあり、お互いの意見や現場の現状についての意見交換をすることも出来ました。

呼吸機能検査の経験が浅い時期に、このような好機に巡り合えたことに感謝しております。最後に、この基礎講座を開催していただいたすべての方々はこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

JA愛知厚生連江南厚生病院 小島 光司

平成29年度の生理検査研究班基礎講座が12月3日に藤田保健衛生大学の生涯教育研修センターで開催され、聴講・見学コースに参加しました。テーマは「呼吸機能検査の基本的知識・手技を身につけよう！」で、呼吸機能検査の基礎講座は貴重であり楽しみにしていました。午前はスパイロメトリー（VC・FVC）や肺胞機能検査（DLco・FRC）の基礎から実施の方法、さらに精度管理についても詳しく講義がされました。自分は肺機能検査において最適な結果を得るために声かけなどの手技に重きを置いていたのですが、測定原理や疾患、患者の状態を理解して検査をすることは、とても有益であると講義を通じて再認識することができました。また内部精度管理が注目されている昨今、やや不安のあった精度管理法でしたが、実技を交えた分かりやすい解説で大変勉強になりました。

午後からは数名ごとのグループに分かれて実習が行われ、自分は簡易呼吸検査、精密呼吸検査の実習見学と呼吸検査に関するグループ討論に参加しました。実習に取り組む受講者を拝見していると、施設や個人で検査説明や声かけに違いがあるのがよく分かりました。各々が試行錯誤しながら、ポイントや改善点を積極



的にディスカッションしながら取り組んでいました。若手からベテラン、さらには検査をやったことのない技師も参加していたのですが、それぞれが工夫や注意点など「新たな気づき」を感じ取っていたようです。

グループ討論は手技や患者対応、感染対策、精度管理など困っている事を出し合い、改善方法を検討するというものでした。討論を通じて学んだことは「どの施設・技師も同じ問題を抱えている」「施設を越えて知恵を出し合えば改善法が見つかるかもしれない」ということです。自分のグループでは検査結果の技師間差や教育についての発表を行いました。他施設の技師と積極的な情報交換を行うことができ非常に有意義でした。今回のような企画は、課題に対して愛知県の生理検査技師全体で取り組んでいく環境になるだけでなく、施設間の交流が盛んになることにも繋がると思います。さらには生理検査に携わる技師のレベルアップや、患者や臨床への貢献にもなることを期待します。最後に基礎講座を企画されたスタッフの方々に、この場をお借りして心から御礼を申し上げます。

《愛臨技生涯教育認定登録団体研究会のご案内》

第 65 回愛知県糖尿病療養 指導研究会学術講演会

テーマ：糖尿病療養における訪問看護
日時：平成30年3月18日(日) 13:00～16:20
場所：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟3階講堂

一般講演 (13:05～15:05)

司会：東海記念病院

藍川 智津

・糖尿病とスポーツ栄養

至学館大学健康科学研究所

森田 有貴

司会：さくら総合病院

磯村 隆倫

・糖尿病患者の下肢慢性創傷に対する
リハビリテーションアプローチ

星城大学 リハビリテーション学部 林 久恵
特別講演 (15:20～16:20)

司会：あさひ病院

横地 正裕

糖尿病運動療法における最新の知見
理論と指導方法

講師：名古屋大学名誉教授

愛知みずほ大学学長 佐藤 祐造 先生

★本講演会は、「日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修会」として第1群1単位、第2群1単位が認定予定です。どちらかを選択してください。

【参加費】愛知県糖尿病療養指導研究会会員無料、
その他参加者1,000円



書の街 春日井 — 小野 道風 —

小牧市民病院 臨床検査科 技師長補佐（第18回愛知県医学検査学会 事務局長） 大野 則仁

皆さん、春日井市のマスコットキャラクター道風くん(とうふうくん)をご存じですか…？(下図参照)

これは、平安時代中期に活躍した『小野道風』(おののみちかぜ/とうふう)(894 - 966)という貴族・能書家をモデルとしています。出身は尾張国上条(現在の春日井市松河戸)であるとされています。道風は、宮中で用いる屏風に文字を書いたり、公文書の清書をする職務に付き、当時の宮廷や貴族の間では「王羲之の再生」ともてはやされ、没後には「書道の神」として祀られています。

こんな逸話があります。

道風が、自分の才能のなさに自己嫌悪に陥り、書道をやめようかと悩んでいた時のこと。ある雨の日、散歩に出かけた道風が目にしたもの。それは、柳に蛙が飛びつこうと何度もジャンプしている姿。道風

は、馬鹿な蛙。飛びつけるわけがない。と馬鹿にした時、偶然に強風で柳がしなり、見事飛び移ることが出来た。これを見た道風は、馬鹿は自分だ。蛙は努力し偶然を自分のものとしたのに、私はさほどの努力もしていない。と強く悟り、以後は血のにじむ程の努力をしたという。

この逸話は多くの絵画の題材とされ、花札の札の一つである「蛙に小野道風」(下図参照)の絵柄もこの逸話から生まれたものだそうです。

これ程の偉人をマスコットキャラクターにした春日井市…

この地で、平成30年7月1日(日)ホテルプラザ勝川において、第18回愛知県医学検査学会を開催します。書の街 春日井。はたまたサボテンの街 春日井。多くの方々の参加をお待ちしております。



©Kasugai City 2008
書のまち春日井「道風くん」

(春日井市公認マスコットキャラクターとうふうくん)



(花札「蛙に小野道風」)

2018年1月10日現在 正会員数 3,259名

AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信
(第51回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物、リーフレット「微生物検査 *Campylobacter jejuni/coli*」についてご紹介いたします。

微生物検査を行う時や、それ以外の医療従事者などに説明するなどの時に、病原体、感染症、検査法、検査の注意点など、とても見やすくまとめられていますので、是非ご活用ください。

詳しい内容、購入方法については、愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

微生物検査

AiCCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
「Campylobacter」微生物検査 飼育病原菌 (2)

— *Campylobacter jejuni/coli* —

【病原体】

Genus *Campylobacter* (カンピロバクター属) は、グラム陰性微好気性らせん状またはコママ状の桿菌である。*Vibrio* spp.より菌体が長くねじれも多いため、粘度の高い環境 (消化管など) での運動や生息に適している。本属は人獣共通感染症の起病病原体であり、ヒトに病原性を示す菌種は *Campylobacter jejuni* *Campylobacter coli* *Campylobacter fetus* がほとんどを占める¹⁾。カンピロバクター腸炎は形態や生化学的性状が類似した2菌種である *C. jejuni* または *C. coli* により発症するが、その90%以上は *C. jejuni* である。家畜類、ブタ、ウシ、イヌ、ネコと多くの動物が保有しているが、ヒトへの主な感染源は、鶏肉からであり本属による腸管感染症のほとんどが汚染された鶏肉の喫食によるものである。腸管出血性大腸菌とならび、極少数の菌体摂取 (100個程度) により感染成立と言われている²⁾。

★POINT

- C. jejuni* は、日本の健康な鶏の肉に約 60%、肉類に約 80% 存在していることが分かっている。
- 新生児感染症、血流感染症の原因となる *C. fetus* は、*C. jejuni* や *C. coli* と違い 42℃ では発育しない。

【感染症】

潜伏期はおおよそ 2-5 日、これまでわが国における三大食中毒菌は *Salmonella* Enteritidis、*Vibrio parahaemolyticus*、*C. jejuni* とされてきた。近年 *V. parahaemolyticus* や *S. Enteritidis* によるものは減少しているが、*C. jejuni* は増加傾向にあり、鶏肉の輸入量増加に起因するとの見解もある。いずれにせよ、関節炎やギラン・バレー症候群などを合併することもあるため注意が必要である³⁾。

【検査】

- 使用する培地 : スキロー-寒天培地、mCCDA 寒天培地などを用いる。
 培養条件 : 42℃、微好気性 (酸素 5-7%、二酸化炭素 5-10%)、湿潤な状況で 48 時間培養する。
 (*C. fetus* は 35℃ にて培養する。)
- 培地の観察 : 光沢の有るスムーズ型、または水濁状、遊走コロニーを特徴として観察する (写真 1、2)。
 同定検査⁴⁾ : コロニーからの直接塗抹 (らせん状を確認する)、オキシダーゼ試験陽性、発育温度、馬尿酸試験などの結果を総合して同定する (表 1)。



写真1 スキロー-mCCDA 寒天培地上のスムーズ型コロニー



写真2 スキロー-mCCDA 寒天培地上の遊走型コロニー

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization

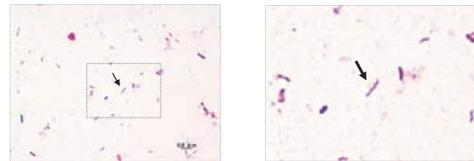


写真3 糞便核体の直接塗抹標本 グラム染色像 (x1000) と拡大像

★POINT

- 発育コロニーが培地全体に遊走した場合、極めて観察し難いので、白金耳などで培地表面をなぞって確認することが望ましい。
- 糞便核体の直接塗抹にて、カンピロバクター属が疑われるグラム染色所見が得られることがある (写真3)。

表 1 カンピロバクター属の生化学的性状の違い

	発育温度		馬尿酸加水分解	ウレアーゼ	カタラーゼ	硝酸還元	ナリジクス酸 (30μg)	セファロチン (30μg)
	42℃	25℃						
<i>Campylobacter jejuni</i>	+	-	+	-	+	+	感受性	耐性
<i>Campylobacter coli</i>	+	-	-	-	+	+	感受性	耐性
<i>Campylobacter fetus</i>	-	+	-	-	+	+	耐性	感受性
<i>Helicobacter cyprioti</i>	-	-	-	+	+	-	耐性	感受性
<i>Helicobacter canadensis</i>	-	-	-	-	+	+	感受性	d

d : 感受性と耐性の両方あり

★POINT

- 近年、*C. jejuni* の中に馬尿酸加水分解が弱陽性の株や、ナリジクス酸耐性株も検出されているため、菌種同定が困難な例が報告されている。
- 治療に関しては、基本的に抗菌薬療法は不要である。
- フルオロキノロン系抗菌薬に耐性の株が増加している。*C. jejuni* で 22-33%、*C. coli* では 62-63% が耐性である^{5) 6)}。

参考文献

- 国立感染症研究所ホームページ IDWR 感染症の類 https://idwr.niid.go.jp/idwr/kansen/k05/k05_19/k05_19.html
- Black PE et al : Experimental *Campylobacter jejuni* infection in humans. *J Infect Dis* 1988; 157: 472-479.
- 山崎伸二 : 臨床と微生物 Vol.40 No.2, 39-44, 近代出版, 2013.
- 大塚利久ほか : 微生物検査7, 102-104, 実研化学株式会社, 2013.
- 高山博彦ほか : ヒトの下痢便から分離された *Campylobacter jejuni* と *Campylobacter coli* の抗菌薬感受性. *感染症学雑誌* 2005; 79: 169-175.
- 国立感染症研究所わが国における腸炎由来 *Campylobacter jejuni* の血清型別検出動向およびキノロン剤に対する耐性菌の出現状況. 2005-2008 カンピロバクター・レファレンスセンター. 病原微生物検出情報 (IASP) 2010; 31: 15-17.

【発行者】 愛知県臨床検査標準化協議会 (AiCCLS) 微生物検査部門

【問い合わせ先】 〒450-0002 名古屋市中村区名駅五丁目16番17号 花車ビル1階
 公益社団法人 愛知県臨床検査技師会事務所内 愛知県臨床検査標準化協議会事務局
 Tel 052-581-1013 Fax 052-586-5680 2015.6.Ver.1

Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization